

## 「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」急性期活動実習(BHELP)を実施しました (2019/12/14, 15)

テーマ：日本災害医学会 地域保健・福祉の災害対応標準化トレーニングコース (BHELP)  
 場 所：東北大学災害科学国際研究所 (宮城県仙台市)

2019年12月14日(土)、15日(日)、宮城県仙台市の東北大学 災害科学国際研究所で第1回・第2回宮城 BHELP 標準コース(共催：コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム)を開催しました。2日間合わせ、東北地方を中心とする保健医療従事者(医師、歯科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、事務職員)、行政職員ら71名が受講し、延べ40名のインストラクターが講師として参加しました。

日本災害医学会 BHELP (Basic Health Emergency Life Support for Public) 標準コースは、災害発生直後の緊急避難場所・指定避難所の設営、運営を被災者の生命、健康維持の観点からサポートできる人材を育成するためのコースです。災害時の避難者のなかには多くの傷病者、要配慮者が存在します。保健医療福祉の観点からどのようにトリアージし、サポートし、外部機関につなげればよいか、座学やグループワークを通して概念、スキルを学習します。佐々木宏之 准教授(災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野)は宮城県で初開催となった今回のコース運営責任者・講師として準備運営に携わりました。グループワークでは、異なる職種の観点から、要配慮者への支援の在り方、外部との連携について熱心な討論がくり返されました。

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」では年間を通じ、災害保健医療に関するさまざまな講演、実習を実施しています。佐々木宏之 准教授はプログラム運営企画委員会委員・実習コーディネーター、講師として運営に携わっています。来年は1月13日(月・祝)にロジスティックサポート実習(宮城県医療救護活動従事者研修会)が当研究所で予定されています。

2020年の講義予定も「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」HP(<https://www.dcmd.hosp.tohoku.ac.jp/curriculum/entry/>)に掲載されており、オープン参加として履修生以外の参加も受け付けています。



BHELP 概要を座学で学ぶ



グループ討議内容を発表



深部静脈血栓症について検討



感染症対策の handover  
検討内容を記載する



避難所のレイアウトを  
保健医療福祉の観点から検討



第1回宮城 BHELP 標準  
コースインストラクター